

科目名	グローバルSDGs人文学
科目名(英訳)	Global SDGs Humanities
科目ナンバー	HX232D01
詳細情報	授業外学修時間: 週4時間
担当者 (非)は非常勤講師	柳谷 啓子 山本 明 塩澤 正 武藤 彩加 岡本 聡 本内 直樹 柊 和佑 小林 博行 安本 晋也 三浦 太一 玉田 敦子 水村さおり 川上 文人
単位数	2
開講学年	2年
開講セメスター	春期毎週
対象学科 選択・必修	必修: 選択: HJ HF HI HW HH HM
他学科受講	
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	【春学期】 岡本 聡・川上 文人・小林 博行・塩澤 正・玉田 敦子・柊 和佑・三浦 太一・水村さおり・武藤 彩加・本内 直樹・安本 晋也・柳谷 啓子・山本 明: 月7-8
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	人文学部の学部共通科目群に属する科目である。また、「グローバル人文教養プログラム」の修了証を得るために必要な科目であると共に、SDGs達成に資する精神や知識を身につける科目である。
身につく基礎力 / 身につく汎用力	課題設定力 クリティカル思考力

授業の主旨 (概要)	この科目は、人文学部5学科のカリキュラム等から目的に適合する科目を学科横断的に抽出して構成した学部独自の「グローバル人文教養プログラム」(『学生便覧』人文学部の章参照)の必修科目のうちの1つです。 授業は、人文学部5学科等の専任教員や外部からの講師によるオムニバス形式で行います。海外での諸活動経験者からは、発展途上国の貧困・飢餓・衛生環境・教育環境の改善などに対する日本の活動の意義を学びます。国際的共同研究の成果報告からは、国際交流の場だからこそ必要となる日本文化の知識や、海外から見た日本文化の見え方などを学びます。また、文化的差異の体験談、価値観や慣習の違いに由来するさまざまな「リスク」に対する備えの必要性などを学びます。異文化適応や異文化理解の分野の専門家からは、近年の研究成果についての知見を身につけ、「語学研修」などで実際に海外留学する際に備えます。さらに、国外に目を向けるばかりではなく、国内の教育現場の報告を通して、諸外国からの滞日児童・生徒が日本国内で直面している問題などについても学び、その解決に向けての方策などを考えます。受講後には、自らの価値観・世界観の中心性・絶対性を相対化することの意義に気づき、SDGs達成に資する精神を身につけていることが期待されます。	
具体的 達成目標	・言語、情報、社会・文化、心理、歴史などの幅広い人文学的視座から、自己や自己が属する社会・文化を相対化してとらえ、思考することができる。 ・グローバルな地球市民の一員としてSDGsのマインドの下で、他者や他文化の価値観や立場を尊重し、多様性の豊かさを享受しつつ、共に持続的に生きていくための意識をもつことができる。	
	1	【内容】オリエンテーション: 「グローバルSDGs人文教養プログラム」の概要、単位取得状況の自己管理、当科目の授業主旨・授業方法・成績評価等に関する説明を行った後、SDGsの基本的精神、および、本学の留学プログラムと留学の意義について講義する。(柳谷啓子・国際センター職員) 【授業外学習】【事前】Web上でシラバス(授業主旨・授業の達成目標・授業計画など)を熟読。 【事後】人文教養プログラムの単位取得状況のチェック、ノート見直し・配布物・課題用フォルダー作成。
	2	【内容】SDGsから考える「教養」の役割: 欧州における人文学の歴史をたどることで、人文学とは何か? グローバル社会で「教養」としてのSDGsはどのように役立つのか? 特に目標4, 5, 10の観点から考える。(担当者: 玉田敦子)関連するSDGs: 4, 5, 10 【授業外学習】【事前】自分が好きなヨーロッパの文学・映画・絵画等の作品と作者について調べておく。 【事後】これまで受けてきた教育とヨーロッパにおける人文学・教養教育の違いについて考えて1000字程度にまとめて提出すること。提出の期限と場所は授業内に指示する。

1 グローバルSDGs人文学

授業計画	3	【内容】	デジタルアーカイブの役割と現状:モノと記録を残したい”気持ち”ではない、残さなければいけない”理由”を考える。(担当者: 柊和佑)関連するSDGs: 4, 9
		【授業外学習】	【事前】自分の好きなもので、後世のために残しておきたいものを考えてください。 【事後】課題を授業中に提示します。
	4	【内容】	SDGsから考えるグローバル社会における国際協力事業の意義とプロジェクトの現場: 外部講師の海外プロジェクトでの経験談を通して、SDGs的観点から、世界が日本に期待することや、世界による日本の位置付けなどを客観的に考える。(担当者: 林立宏・武藤彩加)関連するSDGs: 1, 3, 4, 5, 8, 10, 16, 17
		【授業外学習】	【事前】JICAのHPの「JICAについて」の「JICAのビジョン」及び「事業展開の方向性」の箇所、並びに「国際協力・ODAについて」の項に目を通す。 【事後】JICAのHPの『各国における取組み』の中で、講義で具体的事例として紹介した国におけるJICA活動実績を読む。(注: 事例は、インドネシア、イラク等から、2か国程度、抽出予定)
	5	【内容】	SDGs的観点から学ぶ日本伝統文化の継承・保存・発信の意義: 例えば能楽などのゲスト講師による日本伝統文化の実演と専任教員にSDGs的観点から学ぶ日本伝統文化の継承・保存・発信の意義 例えば日本の伝統的教育、特に寺子屋教育などで行われていた四書五経などを体得する「知識の身体化」についてゲスト講師の辻本雅史氏に解説していただく。百字ずつとか、1日最低限の事を着実に身につけていく事により、それが身体化され応用力を持つというのは、現代においても考えるべき事を指し示している。(担当者: 辻雅史・岡本 聡)関連するSDGs 4
		【授業外学習】	【事前】寺子屋教育について予習する 【事後】辻本雅史先生の『江戸の学びと思想家たち』
	6	【内容】	SDGsの視点から考える文化間コミュニケーション: 今、なぜ文化間コミュニケーションが必要か、どのように異なる文化を持つ身近な人々と付き合っていけばいいのか、なぜそれが難しいのかなどをSDGs目標16【平和と公正をすべての人に】のもとに考える。(担当者: 塩澤 正)関連するSDGs: 10, 16
		【授業外学習】	【事前】上記の3つの質問に自分なりの解答を書き、メモを書いてくること。 【事後】課題の読み物について、800字前後の感想を指定されたSNS上に書くこと
	7	【内容】	SDGsから考える学校における多文化共生①: 外国からの滞日児童・生徒が置かれている現状を知り、そこで起こる生活面・学習面で直面する問題について考える。(担当者: 金箱亜紀・川上文人)関連するSDGs: 4
		【授業外学習】	【事前】以下の書籍を各自が図書館等で借りるなどして読んでおく: みなみなみ著(2009)『クラスメイトは外国人: 多文化共生20の物語』明石書店 【事後】直面する問題について、事例の中から一つ取り上げる。そして、自分が当事者ならどのように感じるかを具体的に述べる。その際、その理由も詳しく記入する。そして、どのように対応して欲しいかを根拠を基に述べる。A4版1枚 600~800字程度。授業が対面であれば講義最後15分程度で記入。遠隔の場合は事後提出。
	8	【内容】	SDGsから考える学校における多文化共生②: 外国からの滞日児童・生徒の問題について、実際の学校現場の対応策を知ることにより、適切な支援方法や対応策についてグループワークを通して考える。(担当者: 金箱亜紀・川上文人)関連するSDGs: 4
		【授業外学習】	【事前】子どもたちの日本語の習得や学力の向上に影響を与える「母語」や「継承語」について調べ、その違いや特徴を理解しておく。 【事後】2回の講義を通して、自分がいっていたイメージがどのように変化したのかを述べる。その際、自分の考えに変化をもたらした理由を具体的に述べる。変化を感じられない場合については、変化に至らない理由や原因を詳しく述べる。A4版1枚 600~800字程度。授業が対面であれば講義最後15分程度で記入。遠隔の場合は事後提出。
	9	【内容】	科学技術とSDGs: 科学技術が人々にもたらしてきた豊かさ、利便性、災害、恐怖などについて過去の事例を学び、科学者や技術者でない立場から、これからの科学技術にどう向き合っていくことができるかを考察する。(担当者: 小林博行)関連するSDGs: 7, 9
		【授業外学習】	【事前】日本の原子力発電所の分布や稼働状況などを調べておく。 【事後】近年の災害、その後の復興、災害への備えに科学技術がどう関わっているかを考察する。
	10	【内容】	SDGsから考える、地理情報科学の活用: 京都市などを対象に、地理情報科学が歴史的建造物や文化的な景観、人々の生活環境等の保全にどう役立つかを説明する。特に地理情報科学の発展によってはじめて可能になったことは何かについて、SDGs目標11および3の観点から紹介する。(担当者: 安本晋也)関連するSDGs: 3, 11
		【授業外学習】	【事前】日本の都市の構造や景観、生活環境にはどのような特徴があるかを調べておく。 【事後】地理情報科学が今後、日本のまちづくりにどう貢献しうるかを考察する。
	11	【内容】	人やモノの移動の歴史について、従来の「世界史」とは異なる時間軸と空間軸で捉える「グローバル・ヒストリー」の考え方を理解する。SDGs目標10【人や国の不平等をなくそう】を視野に身近なテーマをグローバルな視点から捉える。(担当者: 本内直樹)関連するSDGs: 10
		【授業外学習】	【事前】あなたの好きなスイーツの原材料の生産地と商品製造国を世界地図で見出しノートに整理しておく。 【事後】身近なフェアトレード商品を調べ、その生産・消費活動を資本主義経済の枠組みの中で整理しておく。
	12	【内容】	古代ギリシア思想に学ぶ心の健康と病—SDGs目標3【保健】を考えるために—: 西洋思想の基盤である、古代ギリシア哲学者プラトンの著作から、「魂」および心の健康と病について学修する。(担当者: 三浦太一)関連するSDGs: 3
		【授業外学習】	【事前】心の健康と病気について、自分の規定を考えておく。 【事後】プラトンによる魂の健康と病の説明を簡潔にまとめた上で、心の健康と病についての自分の規定を再度説明してみる。提出方法は授業中に提示します。
	13	【内容】	SDGsから考えるグローバル社会における国際報道: 報道における偏りとその影響。(担当者: 山本明)関連するSDGs: 10
		【授業外学習】	【事前】自分が興味のある国際的な出来事について、どういうことを知っているのか、どうやって知ったのか振り返り、まとめておく。 【事後】国際情報と国際認識との関係性について、講義の内容を踏まえて考察する。

1 グローバルSDGs人文学

	14	【内容】	クラシック音楽と私たちの暮らし:地域住民とともに音楽を通じて、健康的な生活を推進し、生涯教育の機会を促進することを考える。(担当者:水村さおり)関連するSDGs:3, 4
		【授業外学習】	【事前】プログラムが決まり次第連絡するので、作品、作曲者について調べておくこと。 【事後】鑑賞後、簡単な感想文を書き、Course Powerにて提出のこと。
	15	【内容】	日本における外国人労働者の実態を、育成就労制度を切り口にして学びます。また、持続可能な国日本を実現するためのダイバーシティ社会のあり方とそのために自分たちは何をすべきかを考え、更には実践するための授業を行います。(担当者:木野瀬吉孝) 関連するSDGs 5・8・10
		【授業外学習】	【事前】外国人労働者の実態と日本人の年齢構成の推移(1950~2060年)を調べる。 【事後】ダイバーシティ社会実現のための各自の役割をまとめる(100字程度)。
授業方法	基本的に講義形式で行いますが、受講者数次第で担当者によっては少人数でのグループディスカッションやその結果のプレゼンテーションを行う場合もあります。提出された課題については、コメントをつけて返却、あるいは、メールで総評を行う等のかたちでフィードバックします。		
成績の評価方法	授業参加状況40%, 期末レポート60%		
成績の評価基準	・授業参加状況:受講態度(授業外学修を含む)、授業内活動、授業内レポートなど。 ・期末レポート:テーマは、基本的により「授業の達成目標」を達成できたか否かを判断する論述問題です		
教科書			
参考文献			
備考	・教科書はなし。必要な資料はWeb上にて、随時、配布します。 ・また、必要に応じて、担当者が推薦図書などを紹介します。 ・提出課題に剽窃の疑いがある場合は、厳正に調査します。剽窃行為が認定された場合は、この科目を不合格にすることがありますので、引用作法や出典の明記等にくれぐれも注意してください。		
関連ホームページ			
メールアドレス	柳谷 啓子 kyanagiy@fsc.chubu.ac.jp 山本 明 exp4055@fsc.chubu.ac.jp 塩澤 正 shioz@fsc.chubu.ac.jp 武藤 彩加 sch4993@fsc.chubu.ac.jp 岡本 聡 sqy3558@fsc.chubu.ac.jp 本内 直樹 see8757@fsc.chubu.ac.jp 柊 和佑 swl0453@fsc.chubu.ac.jp 小林 博行 shk1587@fsc.chubu.ac.jp 安本 晋也 sih7740@fsc.chubu.ac.jp 三浦 太一 shl2564@fsc.chubu.ac.jp 玉田 敦子 szh4123@fsc.chubu.ac.jp 水村さおり szc0650@fsc.chubu.ac.jp 川上 文人 sxw7008@fsc.chubu.ac.jp		
オフィスアワー			